

第二言語習得研究講演会

日時：2016年2月20日（土） 15:30~17:00

会場：お茶の水女子大学 文教育学部1号館1階第1会議室（④の建物）

参加費：無料（事前申し込み不要）

主催：お茶の水女子大学大学院比較社会文化学専攻日本語教育コース

講演内容「Thinking-for-speaking 仮説—SLA 研究におけるその可能性と課題—」

要旨

「言語相対説」をめぐる議論の流れの中で、心理言語学者スロービンが「言語と思考」の関係ではなく「言語産出のための認知・思考プロセス」に着目することを提言してから、既に20年余りになる。これに関するスロービンの一連の主張は「話す為の思考(thinking-for-speaking)仮説」と呼ばれ、言語習得研究に携わる者ならば何度となく耳にしたことがあるに違いない。しかし、その内容を本当に理解できているのか、いささか心許ない気がするケースも多いのではないだろうか。そこで本発表では、仮説について以下の4点を中心に、心理言語学になじみの薄い方にも理解できるような平易な解説を試みたい。

- 1) 話者の概念化プロセスの個別言語性
- 2) 文法化された概念カテゴリーと話者の注意
- 3) スロービンの仮説がSLA研究に与える理論的示唆
- 4) 今後の実証研究に向けて：「仮説でデータを説明する」のか、「データで仮説を検証する」のか

講師紹介

富田直子：ハイデルベルク大学博士課程（ゲルマニスティック専攻）修了，PhD. マックスプランク心理言語学研究所客員研究員、ハイデルベルク大学学術職員を経て、現在、ハイデルベルク大学ドイツ語学・ドイツ語教育学研究所非常勤講師。

母語話者と学習者の概念化プロセスにおける違いとその要因を、主に談話データを用いて分析している。論文に“Strategies for linking information by German and Japanese native speakers and by German learners of Japanese” (International Review of Applied Linguistics in Language Teaching, 51-2, 2013年) など。



会場へのアクセス：
正門からお越しください。
（南門は開いておりません）。
最寄駅は茗荷谷駅です。

講演会当日 第93回言語習得研究会（関東）開催

詳細：<http://www.li.ocha.ac.jp/global/mrs/kasla/k1.html>

問い合わせ：moriyama.shin@ocha.ac.jp（森山）